

ウイルス性発疹症①

一般的に子供の皮膚は、大人と比べて薄く、また未熟であるため、発疹がしやすいと言われています。また、生活環境の面からも、幼稚園や保育所、学校といった集団生活の場を通して発疹性の感染症にかかる機会が多くあります。

子どもの発疹の多くはウイルス感染に伴うものです。元気で水分が取れていれば慌てて受診する必要はありません。診療時間内に受診をしましょう。受診をするときには、発熱や発疹が出ていることを受付で伝え、他児に感染させないようにマスクを付けていきましょう。

急いで受診をする必要がある発疹

食事や薬の内服後、うるしなどアレルギー性の高いものに触ったあと急に赤く膨れ上がるような発疹（蕁麻疹）が全身に出現し、呼吸が苦しい時または咳をしはじめた時はアナフィラキシーショックが疑われるので、病院へ連絡しましょう。

蕁麻疹だけで、冷やして症状が落ち着くようなら家で様子を見ても良いです。

考えられる病気	発疹の特徴	その他の特徴
じんましん	かゆみのつよい膨疹。通常、数時間で消える。	ひどい時には呼吸困難、腹痛、下痢など
伝染性膿痂疹（とびひ）	虫刺されなどのあとの水疱、破れると広がる。	タイプによりかゆみ、リンパ節の腫れ
伝染性軟属腫（水いぼ）	真珠様光沢の丘疹、大きくなると中心がへこむ、潰すと広がる。	
薬疹	同じ薬剤でも発疹の種類や出かたは様々。	かゆみや全身症状もタイプによって多彩

考えられる病気	発疹の特徴	その他の特徴	熱の特徴
水痘（水ぼうそう）	かゆみがある。丘疹、水疱、痂皮などが混在している。	腹痛、食欲不振、嘔吐など	高熱のこともある。3～4日。
麻疹（はしか）	顔面の丘疹が手足へ移動していく。しばらく発疹のあとが残る。	発疹前に口腔内に白っぽい発疹（コプリック斑）ができる、せき、眼の充血など	40℃近い高熱が2度。7日前後。
風疹（三日はしか）	発熱と同時に顔面に丘疹ができる。顔面へ広がる。	リンパ節の腫れ、眼の充血など	発症と同時。微熱。



ウイルス性発疹症②

考えられる病気	発疹の特徴	その他の特徴	熱の特徴
伝染性紅斑 (りんご病)	両頬に大きな紅斑ができる。1～2日後、左右対称に手足にも紅斑ができる。	せき、頭痛、鼻水などのかぜ症状など	38℃以下が多い。2～3日。
突発性発疹	熱がさがった直後に体に丘疹ができ、顔面へ広がる。	喉の痛み、食欲不振、嘔吐、下痢など	高熱。3～4日で急に熱が下がる。
手足口病	舌、口の中、手のひら、足の裏に水疱ができる。	かぜ症状、口の中の痛みなど	半数は発熱が先に出る。年長は平熱。
猩紅熱	かゆみがある赤色の小丘疹が出る。	舌に赤い丘疹(イチゴ舌)、喉の痛み、リンパ節の腫れ、眼の充血など	40℃近い高熱が3～4日。その後、微熱。

発疹が出たら・・・

- かゆみのサインは？

赤ちゃんがお母さんの胸に顔をひどくこすりつけたり、自分でかいたり、つめを立てたりする時がかゆみのサインです。熱くないか、汗をかいたり汚れたりしていないかを確認しましょう。

- 熱いお風呂はだめ、シャワーで清潔にしましょう

熱いお風呂に入って体が温まるとかゆみが強まるので注意して下さい。ぬるめのお湯かシャワーなどで皮膚を清潔にしましょう。シャンプーや石けんなどは刺激の少ないものを使って洗い、しっかりと流しましょう。

- かゆみが強いとき

冷たいタオルなどで冷やすことでかゆみは和らげられます。ただし、氷水で冷やしたり、患部を叩いたりするのは刺激になるので避けましょう。乾燥で皮膚がかさかさしている時は、ベビーローションなどの保湿剤で保湿しましょう。

- つめは短く切って掻きこわさないようにしましょう

湿疹は掻き傷につめの中のばい菌が感染してひどくなることも多いです。いつもつめは短く切り、外出後などの手洗いもしっかり行いましょう。ひどく掻く時は手袋をつける方法もあります。

- 肌触りのいい綿素材の服が良いでしょう

かさかさした素材の服は刺激を与えるので良くありません。肌触りのいい清潔なものを身につけるようにしましょう。洗剤や柔軟剤が衣服に残っていると肌トラブルの原因になるので洗剤はよくすすぎ、柔軟剤は使わないほうが良いでしょう。

- 薬は清潔な肌にしっかりとのばしましょう

薬がなかなか効かないのは、塗り方に原因があることもあります。

医師に処方された薬を少なめにとって、親指の腹または手のひらで薄くよくすり込むことが大切です。

